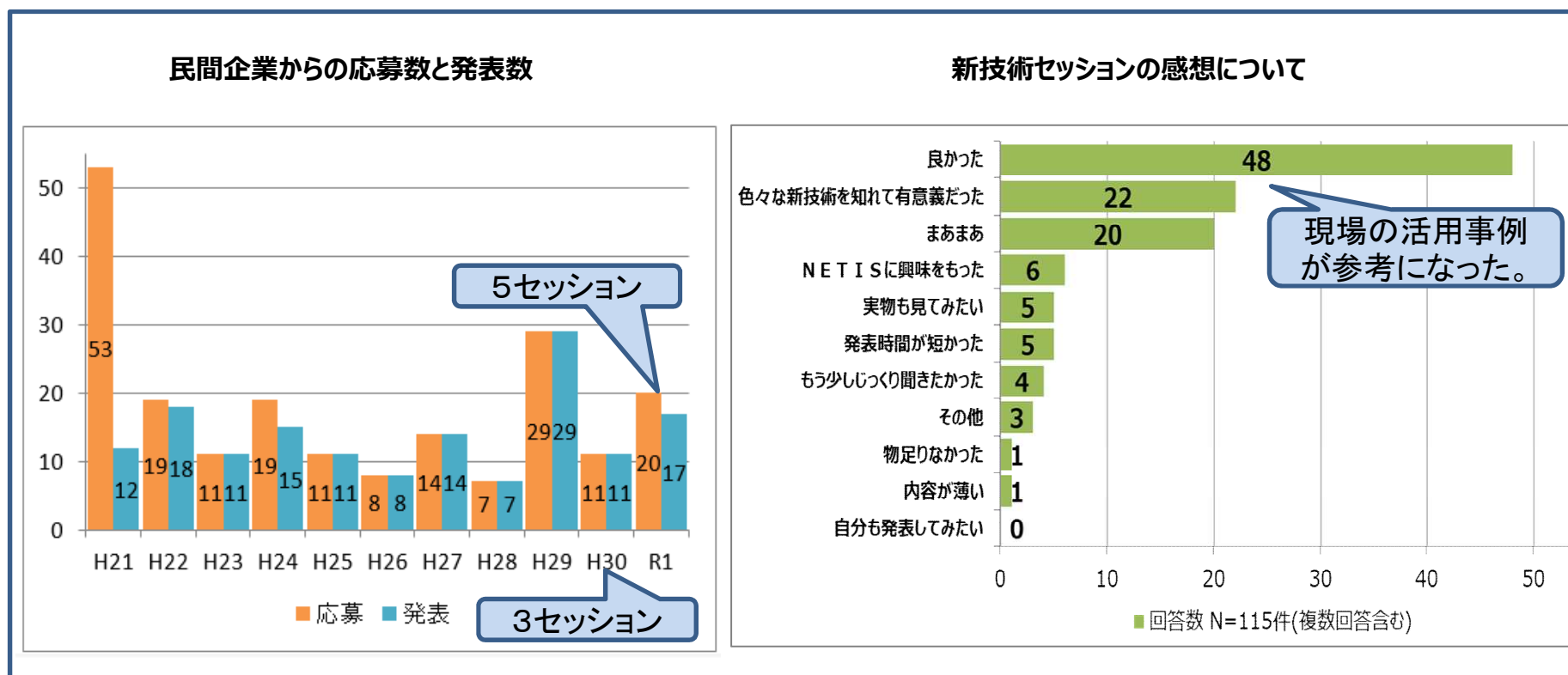


新技術セッションについて(1/2)

■新技術セッションの状況

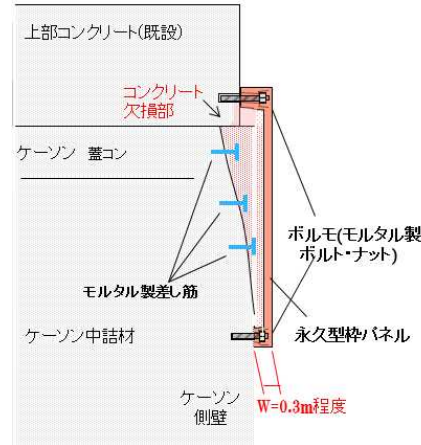
今年度は、発表数が17技術（前年11技術）、参加人数は延べ250名（前年187名）でした。発表プログラムは、関連のある部門毎のセッションとすることで参加しやすい構成としました。質疑応答では、開発局職員から発表技術の適用範囲や留意事項に関して現場目線での質問がありました。また、参加者のアンケート結果で特に関心が高かった発表技術として記載が多かったのは、「永久型枠工法」、「標定点無しUAV測量機による施工管理技術」、「D・Box工法」、「エポコラムTaf工法」でした。

■アンケート結果



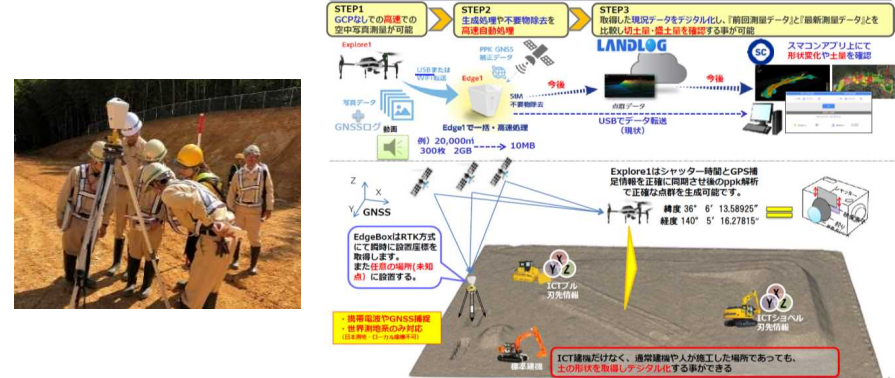
■参加者アンケートの結果において関心を集めた技術

- ・永久型枠工法 (HK-140002-A)
 企業名：株式会社 南組/北日本港湾コンサルタント (株)
 国立大学法人 室蘭工業大学



**型枠の撤去作業が不要！
⇒工期短縮、コスト縮減**

- ・標定点無しUAV測量機による施工管理技術 (NETIS未登録)
 企業名：西松建設株式会社



効率的な点データの習得により、一般のUAVと比較して1/3程度の時間で撮影⇒測量計算可能！

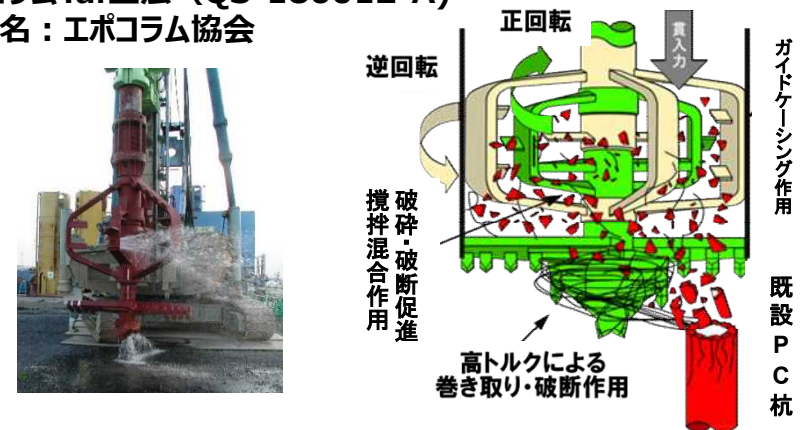
- ・D・Box工法 (KT-100098-VR)
 企業名：パシフィックコンサルタンツ株式会社

(内部拘束効果) 道路下層路盤への使用例(振動対策)



施工性が良く、撤去も容易！⇒工程短縮、コスト縮減

- ・エポコラムTaf工法 (QS-180012-A)
 企業名：エポコラム協会



**地中障害物に対する「補助工法」が不要！
⇒工期短縮、コスト縮減+ICT技術活用により生産性向上**